

# リアルオプションと戦略

2016 February

Vol. 8 No. 1


 日本リアルオプション学会  
The Japan Association of Real Options and Strategy
<http://realopn.jp>

## 巻頭言

リアルオプション学会のリアルオプション [後藤 允] ————— 1

公開  
研究会  
2015-2016

## 講演要旨

すべての企業を世界につなぐ言葉のコンシェルジュ [二宮 俊一郎] ————— 2  
～専門性の高度化と言葉の事業領域の拡大～

バイオ燃料の製造における不確実性 [小井土 賢二] ————— 6

「グループ連邦経営」への挑戦 [川井 潤] ————— 20  
～変化に対応する柔軟なビジネスモデル構築を目指して～

大会  
JAROS  
2015

## 研究発表大会 講演要旨

地方創生と企業家精神 —新潟地域における企業家と企業家教育— [丸山 一芳] ————— 10

デザイン的思考とイノベーション [岩佐 十良] ————— 15

## 寄稿

プロジェクトの総合的評価法 (5) [宮原 孝夫] ————— 24

査読  
論文

不適切会計に揺れる東芝のウエスチングハウス買収戦略に関する一考察  
[中岡 英隆] ————— 30

オプション価格理論の学説史 (2) ブロンジーノ・モデル (1908) とその拡張  
[森平 爽一郎] ————— 37

学会ニュース

## 第8巻 第1号

### 目次

#### 巻頭言

リアルオプション学会のリアルオプション	後藤 允	1
---------------------	------	---

#### 公開研究会 講演要旨

すべての企業を世界につなぐ言葉のコンシェルジュ	二宮 俊一郎	2
～専門性の高度化と言葉の事業領域の拡大～		
バイオ燃料の製造における不確実性	小井土 賢二	6
「グループ連邦経営」への挑戦	川井 潤	20
～変化に対応する柔軟なビジネスモデル構築を目指して～		

#### JAROS2015 研究発表大会 講演要旨

〈セミナー:「地方創生と価値創造イノベーション」より〉

地方創生と企業家精神 ―新潟地域における企業家と企業家教育―	丸山 一芳	10
デザイン的思考とイノベーション	岩佐 十良	15

#### 寄稿

〈研究メモ〉

プロジェクトの総合的評価法(5)	宮原 孝夫	24
------------------	-------	----

#### 査読論文

不適切会計に揺れる東芝のウエスチングハウス買収戦略に関する一考察	中岡 英隆	30
オプション価格理論の学説史(2)		
ブロンジーノ・モデル(1908)とその拡張	森平 爽一郎	37

〈学会ニュース〉

日本リアルオプション学会 会員募集中!	5
本機関誌へのご寄稿のお願い	5
JAROS2016研究発表大会へのご案内	9
2015年度 第12回 公開研究会へのご案内	19
日本リアルオプション学会 法人会員	29
論文誌「リアルオプション研究」原稿募集のご案内	29
Call for Paper: International Journal of Real Options and Strategy	36
学会だより	48
編集後記	48

## 巻頭言

## リアルオプション学会のリアルオプション

後藤 允

(日本リアルオプション学会論文誌担当理事 北海道大学大学院経済学研究科)

筆者がリアルオプションと出会ったのは、修士1年生のときだった。前会長の大野高裕先生の研究室で、先輩が修士論文の題材としてリアルオプションを発表していたのを聞いたのが初めてである。これは面白そうだが、実際には競争相手がいるはずで、こんなに悠長に投資を待ってられるはずがないと直感した。実際、自分の修士論文で、競争環境下のリアルオプションを研究するうちにのめり込んでいき、当時の助手の先輩の勧めもあって、博士課程へ進学を決めた。

修士論文の提出も終えた頃、当時研究室の後輩だった宮口直也氏（現アジュアスカイコンサルティング代表取締役、広報担当理事）から、東京大学での勉強会に誘われた。実はあまり気乗りしなかったのだが、せっかくなので行ってみると、発表者は当時修士2年生の高嶋隆太氏（現東京理科大学、総務担当理事）だった。今度は高嶋先生のお誘いで、青山学院大学で開催されているリアルオプション研究会へ参加することになった。この研究会の主査は現機関誌担当理事の高森寛先生であり、この研究会こそが本学会の前身である。この研究会には、服部徹会長、副会長の長谷川専氏と今井潤一先生、研究大会担当理事の辻村元男先生をはじめ、現在の本学会の根幹を成す方々が参加されており、当時学生だった筆者は大いに刺激を受けた。

数年後、高森先生を中心に本学会の設立準備委員会が発足され、2006年にリアルオプション学会が設立された。振り返ってみると、筆者が本学会の前身であるリアルオプション研究会に参加するまでに、3つの分岐点があったように思う。1つめは、助手の先輩に博士課程を勧められたこと。2つめは、宮口氏から東京大学の勉強会に誘われたこと。3つめは、高嶋先生からリアルオプション研究会に誘われたこと。これらは、3人から筆者へ無償で譲渡されたリアルオプションであったと考えることができる。これら3つのリアルオプションを最適に行使できた結果が、現在である。

このように人生がリアルオプションであるならば、当然ながら組織もリアルオプションであろう。しか

し、企業ならば他社から無償でリアルオプションが譲渡されることはありえないので、企業努力を積み重ねてリアルオプションを創出していかねばならない。このような観点から、本学会の現状を見直してみたい。設立当時の正会員数は159人、法人会員数は15口、第1回研究発表大会は100名を超える参加者があり、学术界と産業界の両方からの注目の高さが伺えた。しかし残念ながら、会員数、大会参加者ともに減少を続けており、なんらかの対策を打たなければならない時期に来ている。もちろん、対策とはリアルオプションである。

また、論文誌担当理事の立場からは、論文の投稿数、掲載数の低迷が大きな問題である。学会設立から遅れること2年、2008年に論文誌「リアルオプション研究」が創刊され、創刊号は5編を収録した。2010年には査読セッションを立ち上げ、年2回刊として掲載数も倍増した。さらに2013年には、英文誌 *International Journal of Real Options and Strategy* を創刊し、それまで和英混在だったリアルオプション研究は和文限定誌となった。しかし、英文誌創刊以降は投稿数、掲載数ともに減少を続けており、編集委員会としても危機感を強めているところである。査読セッションというリアルオプションの行使は大正解であったが、英文誌創刊で2誌に分散したことが負の効果となっていることを認めざるを得ない。

そこで現在、不確実性も高いが価値も高いと思われるリアルオプションを創出中である。2013年に本学会も東京で共催した、Annual International Real Options Conference (ROC) の主催者である Lenos Trigeorgis 先生に協力を依頼し、国際化を推進して広く投稿を募るとというのが主旨である。この協力関係も、本学会員の先生方が継続的に ROC に参加していること、東京で共催した実績があることが大きく寄与していることは言うまでもない。

このように、本学会はさまざまな課題を抱えており、その対策としてリアルオプションを創出していくことが不可欠である。まさに、リアルオプション学会としての底力が試されている。

日本リアルオプション学会機関誌  
**リアルオプションと戦略 第8巻 第1号**

2016年2月29日 発行

(機関誌編集委員会)

委員長：高森寛

委員：森平爽一郎、中岡英隆、伊藤晴祥

発行所 **日本リアルオプション学会**

THE JAPAN ASSOCIATION OF REAL OPTIONS AND STRATEGY

事務局本部：

〒103-0027

東京都中央区日本橋1-4-1 日本橋1丁目ビル5F

早稲田大学ファイナンス研究センター

事務業務担当：

〒104-0033

東京都中央区新川2-22-4 新共立ビル2F

電話：03-3551-9893 FAX: 03-3553-2047